

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172001018		
法人名	株式会社 アイリスマーク		
事業所名	グループホーム ふれあい小樽・稲穂(2F)		
所在地	北海道小樽市稲穂1丁目1番1号		
自己評価作成日	平成27年12月4日	評価結果市町村受理日	平成28年3月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigvosvoCd=0172001018-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員全員で運営理念を作り上げ、それを共有し日々実践に向け努力しています。

・職員の元気で明るい挨拶や笑顔が、利用者の笑顔も多く引き出し、活き活きと明るく楽しい暮らしをして頂けるよう支援しています。

・開設10年目を迎え、高齢化や重度化の問題にも直面しているが、ご家族・職員が相談しあいがらその人らしい生活の支援が提供できるよう努め、ご家族・利用者が安心して生活を送れる環境作り配慮しています。

・地域の保育園や小学生との交流を支援し、この交流が利用者の楽しみ・活力となるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1)ホームの環境：ホームは市の繁華街にあり、身近な医療機関、学校、商店等との密接な関係維持と旧国鉄手宮線跡公園に隣接する好環境を運営に活かしている。また3階社屋の2・3階を介護居間・居室等、1階はレク・ゲーム・集い・会議等多様な活動を可能にしている。

2)職員の姿勢・態度：創設10年目、開設以来の職員も多い。職員は専門性、資質向上に努め、利用者本位で自立を支える姿勢を基本に、静かで、優しく、丁寧な「ふれあい」を大切に介護に徹し、実践に努めている。また、記録資料の整理・活用と維持・管理も良い。

3)家族・利用者の満足：家族への月例報告は、個々の生活状況、推進会議での運営・活動状況報告、金銭管理や職員異動等、運営の透明性と要望等への即応さ等、高い満足を示している。(アウトカムとアンケートの結果等から)

4)運営推進会議開催状況：会議は定例に開催し、議題を明確にして運営状況の資料等を開示、参会者の意見を捉え、運営に活かすと共に、議事録を家族に送付して理解を得ている。

5)地域との連携関係：医療機関、保育・小学校、地域防災関係、商店等との密接な連携を図り、それぞれの役割を利用者の豊かな生活に資するよう、関係の維持に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を改訂し、毎日の申し送りにて全員で斉唱する事により、スタッフ全員に浸透、定着している。	運営規程は「心と心、ことばとことば、目と目、手と手のふれあい」を運営方針とし、「ふれあい」を原点に、家庭的環境の中で支援する等、詳細に規程している。職員はこの方針を具体化、共有して実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	商店街の普段取引をしている所には交流もあり、時に協力を頂ける関係になっている。町内会に加入しており、避難訓練等で地域の住民の協力を得たり、保育園、小学校と催しでの交流も定例化している。	近隣の商店との取引を大切にして日常生活関係を図り、関係庁と共に地域防災団体との連携、保育園・小学校との相互の関係を維持して、ホーム運営の課題解決に資するよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解という点では、積極的な活動は現在もできていないが、ご近所の取引先の方には一人だが、引き続き運営推進会議にて話を聞いて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行っており、会議では事業所からの報告、参加者からの意見、要望を聞き、サービス向上に活かしている。見直しを行った議事録を送付し、参加していないご家族に向けても詳細を伝える流れが定例化している。	会議は定例に開催し、議題を明示して運営資料等で運営の透明性に努めている。参会者の意見、識者の提案や説明に学び、家族には議事録を送って運営上の課題や実施事項の理解に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に事故報告書等の相談をし、指導・アドバイスを頂いている。運営推進会議に、中部包括支援センターの方にも参加して頂き、情報交換に努めている。	行政への事業結果報告、事故報告、評価結果報告等を通じた運営状況について相談・助言を得ると共に、推進会議には包括支援センターから介護に係る助言や情報の提供を得て、運営に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組み、徹底している。研修会内容の伝達をスタッフに伝える手段として、ホーム内研修を導入し、実行している。しかし、全員が参加できるわけではないので、参加出来なかった職員への指導が課題。	運営規程は身体拘束の考え方やむを得ない拘束要件(切迫性・非代替性・一時性)を明示すると共に、事業所内研修で確認し、共有して利用者の尊厳や生活の個別性等を損なわないように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修に参加し、スタッフに向けての報告会を設けた。今後、全員に浸透できるようにする為の定期的な社内研修会を設定できるよう検討していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し学んでいる職員はいるが、職員全員が理解している状態ではない。現在、成年後見制度や日常生活自立支援事業を活用している利用者がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面と口頭で十分な説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接、電話などで利用者や家族の意見、要望を聞くよう努めている。また、運営推進会議でもお聞きし、出来る限り反映できるよう努めている。	運営推進会議への参加、月例の生活状況・金銭管理等報告と共に会議議事録を送るなど、意見の反映の機会を準備している。また、来訪時の対応には意向を留意して聞き取り、利用者個々や運営に反映するよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と職員の間での意見交換をする機会は回数的に少ないが、ホーム長が各フロアに入り、日常の中で意見を聞き取り、また、ミーティングに参加、運営に反映させる体制作り着手している。	月例の職員会議では、運営上の課題や利用者の生活状況と支援上の課題を協議し、職員の業務上の意見・意向の交換に努めている。また、会議録や研修時に係る個別意見や感想を編集して、資料として活用する等、運営への反映の仕方を工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準では各自に向上心を導き出せるような体制作り着手、成果も出ているが、まだ十分とまではいかない状況。今後も職場環境、条件の整備に努めていく必要がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加の機会はあるが、参加条件的に参加が難しいものも少なくない。また、なるべく多くの職員が参加できるよう時間調整にも対応しているが、意識の個人差があり、それも課題となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問研修を実践しており、サービスの質を向上させるよう努めているが、体制的に困難な月もあり、予定分を全て参加できている状況ではない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談し、心身の状態や思いに聞き合い、本人が安心するような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族から要望等をしっかりと聴き、良い関係作りに努め、少しでもご家族等の不安を減らせるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談から本人、ご家族の思いや状況を把握し、必要としている支援の提供が出来る様努めている。特に初期段階においては、こまめに連絡、情報を伝えながら対処している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とはふれあい、会話も多く、一緒に食事や日常的な作業をしている中でのコミュニケーションを大切に、時間を共有、密な関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事等を伝えたり、ご家族をホームの行事にお誘いしたりして、本人を支えていく関係を築いている。来訪時には近況を伝え、意見を伺いながら抱えている課題については、即対処できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院など、昔からの馴染みの場所へ行き続けられるよう努めている。又、年賀状、電話連絡等、関係が途切れないように支援している。市民後見人の方による外出支援時には、協力体制に努めている。	利用者個々の馴染みある場や関係の支援に努めると共に、祭り、隣接する旧国鉄手宮線跡公園などでの催し、市民後見人の活用など、ホームならではの工夫を重ねている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係には常に気を配り、トラブルの兆しが見えた時点の対応に努めている。トラブルが発生した時は職員が関係修復に迅速に対処し、利用者同士の関係を把握した関わりが持てるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も本人、ご家族の相談や支援に取り組む姿勢は心がけているが、実際には交流は殆どない。近所でお会いした際は、ご挨拶などは行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気無い会話や行動、表情から思いや意向をくみ取り、職員間で書類・口頭にて情報を交換・共有しながら把握に努めている。	開設来の利用者もあり、個々のアセスメントの記録や日常の動作・表情や生活ぶりに留意し、よく観て、よく聞いて意向を把握できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人やご家族からお聞きし、ホームでも可能な限り続けていけるように工夫、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し心身状態、有する力の把握に努めてはいるが、ホーム主体になってしまう部分も存在している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向、主治医の意見を取り入れ、会議などで職員同士で話し合い、その内容を元に介護計画を作成している。	職員は利用者の担当制を基に、日誌やケアの実践記録を共有しており、ケア計画者に意向が反映され、策定された計画は家族の了解を得て、見直しを行っている。記録の整理と維持管理がよく行き届いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フロア日誌や個別日報にケアの実践、結果等を記入し、全職員が情報を共有する体制になっており、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じて通院、外出等、全てではないが、必要に応じ、柔軟に対応するよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全面を重要視してしまう為、豊かな暮らしという面では、十分な支援が行き届いているとは言いがたい面もある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に沿ったかかりつけ医となっており、利用者それぞれのかかりつけ医に相談、指示を仰ぎながら、関係向上に努めている。	利用者のかかりつけ医を大切にしている。協力医療機関の2週に1度の回診、24時間体制の連携の下に、個々の対応に備えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診・往診時だけでなく、体調等の変化、気づきを適時に報告、相談しながら、指示を仰いでいる。往診前には状態の詳細を連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状況に応じ、面会時や電話にて、状態を病院関係者へ確認する他、ご家族にも電話等で情報を得ながら、より良い関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族に意思確認を行うとともに、状態、段階に応じた気持ちの聞き取りを何度も行い、その時々の変化に寄り添えるように努めている。	急変時(重度化)や終末期対応は、対応要件を示して同意書を交わしている。過去2名の終末期の対応経験があり、個々具体的に協力医療機関・家族等との協議を重ねて対応している。	今後、重度化・終末期の対応傾向が高まり、各機関連携への準備も望まれると予想されます。必要に応じた対応指針の具体化(協力病院・施設等との支援協力等)について、検討を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームにAEDを設置し、職員半数以上が普通救命講習を受けている。ただ、定期的な訓練には至っておらず、対処に関しては不安は拭いきれない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立会いの下、地域住民やご家族の協力を得て避難訓練を行っている。また、災害時の備蓄品も用意している(水・食料品)	年2回の想定訓練を実施している。推進会議でも災害関係機関、地元消防団関係者と協議する等、連携を深めている。また、備蓄の対応に努めている。	近時の災害の多様化と困難度の高さなどから、従来にも増して、関係庁と住民組織との情報交換と役割について協議を深められるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、利用者一人ひとりに合った言葉かけや対応に努めている。	職員は運営指針に準じ、やさしく利用者に寄り添い、その人らしさを大切にしながら個別性を損なうことのないよう留意した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせ日常生活の中で自己決定できるよう働きかけているが、現実的には急かせたり、職員主導になる場面がいくつかある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間、体制的な事情もあり、満足を得られる程の希望に沿う事は出来ていないが、努力は行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿いつつ、アドバイスも行いながら、その人らしくおしゃれできるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備や後片付け等、利用者それぞれが活躍出来る場面の提供に努め、可能な限り自力で食事が出来るよう、個人の状態に応じた食器を活用している。	季節に合わせた練漬作りや、個々の力に応じた相互の手伝いの機会を整えている。食事の彩りや栄養・食べ易さ・器などにも配慮して、食事が楽しく、味わいのある時となるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者それぞれの状態に応じ、個別に支援内容を工夫している。嗜好品の他、乳飲料を身体状況に応じ提供、体の栄養バランスを考慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力量に応じ仕上げ磨きを介助、声掛け等の支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状態に応じ、下着・パッド類の見直し、導入の他、排泄チェック表を活用し、定期的なトイレ誘導を行っている。不快感、不安な気持ちをより削減できるよう努めている。	個々の生活状態に応じた排泄パターン、習慣等の記録的な把握を図り、職員相互が共有し、着用する下着の適切な対応等、個々の可能な自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談し下剤服用を調整している他、水分摂取、乳製品の飲食、運動を取り入れて対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけ希望やタイミングに沿うよう努めているが100%対応できているわけではない。ホーム側の事情や、状況に応じた誘導になる事もある。	利用者の思いや状態に留意して入浴を促し、概ね午前中～夕方までの間、個々の気分にあった入浴となるよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の活動を促し、生活リズムが安定するよう支援している。各人のペースへの考慮、身体状況に応じ、体を休める時間の設定、誘導も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各書面を通し、薬の変更等の詳細について、職員全員が把握できるようにしている。薬に関する知識、情報も適時開示し、知識習得に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみ事や気分転換等は個人的な視点にも留意し、より楽しめる場面提供、力量に応じた声掛け、支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生会では利用者の希望を聞き外出に出たり、行事イベントへの参加を支援しているが、日常的な希望に沿った外出は、時間、体制的にも難しいのが現状である。市民後見人、ご家族にもご協力を頂いている。	心身の状況や意向、季節に応じ、隣接する旧国鉄手宮線跡公園の行事を眺め、誕生会の食事の機会での外出や、家族・市民後見人の協力を得て、多様な支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方には、外出時にお財布を渡し、自力での支払いを支援していたが、状态的に難しくなり(本人)、現在は金銭的な部分は全て介助の体制になっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望、必要性を感じた際は、積極的に電話の支援を行っている。年賀状作成も支援の中行ってもらっている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁紙を作ったり、季節のお花、壁のディスプレイ等で季節感を演出している。その他、行事の写真を利用者の方に切り貼りしてもらって、思い出の演出に配慮している。温度・湿度を定期的にチェックし、冬季間は加湿器を2台にし、湿度確保に努めている。	3階建てのホームは、1階に多目的ホール、2・3階の共用居間は居室の中央にあって集い易く、他の設備との利便性も良い。温・湿度、採光等の配慮の下に、季節に応じた花や風景画を飾り、行事や催しの写真など、馴染み多い雰囲気づくりが工夫された環境にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室での過ごし方の充実に向け、ご家族と相談、対処したり、利用者の相性にも配慮し、席替えを行い、より近しい関係作りにも気を配っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は特に家庭で使い慣れた物の持ち込みを積極的に勧めている。途中からの入れ替えにも応じている。ご本人、ご家族の思いを出来るだけ受け入れる体制に努めている。	個々の生活状態に応じたポータブルトイレや座椅子が置かれ、馴染みの家具や家族の写真・テレビ等が配置されている。家族の意向等も大切にしたい支援に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ミーティングで話し合い、安全で自立した生活が送れる様工夫している。また、危険物のチェック、設置状態について話し合い、撤去又は目に触れない工夫に努めている。		